

## 関東地震 100 年 — 展示協力の事例集 —

本多 亮 (神奈川県温泉地学研究所)

### はじめに

2023 (令和 5) 年は 1923 (大正 12) 年に発生した大正関東地震から 100 年目になります。神奈川県内ではさまざまな記念行事が行われ、なかでも「神奈川県震災 100 年」と銘打った神奈川県博物館協会の連携事業である神奈川県震災 100 年プロジェクトは、県内全域の博物館などが参加した大規模なものでした。温泉地学研究所 (以下、当所) では独自のイベントを実施しませんでした。多くの講演依頼や展示協力の依頼があり、「神奈川県震災 100 年」に参加した博物館や地元の図書館などに、地震計やすす書き記録などを貸し出しました。そこで、せっかくなら展示を見にいかななくてはということで、実際に現地に見学に行ってきました。本稿では、その感想と当所が協力した展示について簡単に紹介いたします。

### 小田原市郷土文化館

小田原市郷土文化館は、小田原城址内のお堀に面した歴史を感じさせる趣ある建物です (写真 1)。蓮池を左に見ながら城址南側の小峯橋 (御茶壺橋) を渡った左手にあります。こちらでは「100 年の記憶と記録—小田原の関東大震災—」という企画展が開かれました (写真 2)。主な展示は、小田原での体験談や貴重な写真などでした。地元の方が実際に震災を経験したときの証言や当時の写真からは、大地震のおそろしさを後世に伝えなくてはいけないという、人々の思いを感じ取ることが



写真 1 小田原市郷土文化館の外観



写真 2 特別展入り口 (小田原市郷土文化館)

できました。また、根府川の山津波の現場の見学会も実施しており、土砂で埋まったあとに掘り出された釈迦如来などを見学しました。当所からは、速度型地震計 (水平 1 成分) を貸し出し、展示していただきまし

た (写真 3)。立派な透明ケースの中に鎮座する姿はなかなか威厳(?) が感じられます。この企画展については、担当者が本号に寄稿してくださった (田中, 2024) ので、あわせてご覧ください。



写真3 展示中の地震計（小田原市郷土文化館）



写真4 南足柄市立図書館の外観

## 南足柄市立図書館

南足柄市立図書館は、狩川と県道74号線の交差するあたりにあり、伊豆箱根鉄道大雄山線の塚原駅が最寄り駅です。真っ白な建物で、入り口の三角形の屋根をした通路が特徴的です（写真4）。こちらでは、「関東大震災あれから100年」と題した企画展示が開催され、関東大震災の被害や地震の特徴、当時の作家が書き綴った地震の感想や随筆などを紹介していました。また、この展示のために市内の小学校の沿革誌の原本を探し出して、地震発生時の学校の様子を紹介していました（写真5）。

当所からは同じく速度型地震計（水平1成分）を貸し出しました。さらに、実際に揺れの様子を見たいとのことでしたので、センサーで検知した揺れを表示させるためにモニタとPCも貸し出しました（写真6）。子どもたちに楽しんでもらうための工夫が盛りだくさんで、とても参考になりました。詳しくは、本号の加藤ほか（2024）をご覧ください。



写真5 パネル展示の様子（南足柄市立図書館）



写真6 展示中の地震計と波形モニタ（南足柄市立図書館）



写真7 展示室入り口（立山カルデラ砂防博物館）

### 富山県立山カルデラ砂防博物館

以前に当所に勤められていた学芸員の丹保俊哉さんからの依頼で、遠く富山県立山カルデラ砂防博物館にも地震計を貸し出しました。こちらは、3成分一体型の速度計、ボアホール型の地震計を分解したもの、上下動1成分速度計に加え、70年代のすず書き記録も提供しています。残念ながら現地に見学に行くことはできませんでしたが、展示のテーマは「歪み動く大地」ということで、震災というよりも地震の観測に注目した展示だったようです(写真7、8)。地震計にUSB オシロスコープをつないでPCを使って波形を表示する、というアイデアは、実は丹保さんから教えていただいたもので、あとから依頼のあった南足柄市図書館や県立歴史博物館での展示の際に、活用させていただきました。

### 神奈川県立歴史博物館

横浜の県立歴史博物館は、みなとみらい線「馬車道駅」から徒歩1分のところにあり、巨大なドームと



写真8 展示の様子。左手の壁にすず書き記録がみえます。（立山カルデラ砂防博物館）

重厚な建物が特徴です（写真9）。こちらでは、特別展「関東大震災—原点は100年前—」が開催されました。さすがに規模が大きく、地震直後の写真、被害分布図、地殻変動図、様々な人の書いた日誌や記録など、展示は多岐にわたっていました。学芸員の武田周一郎さんからは、特別展の1年以上前から、ぜひ観測機器を当所から借り受けたいという熱い要望がありました。その熱い思いにこたえるべく、前年まで観測に

使用していたボアホールタイプの地震・傾斜計を展示用に再構成し、機動観測用の機材と波形表示用のPCを合わせて貸し出すことにしました（写真10）。さらに、津波堆積物の調査の際に採取した剥ぎ取り標本も一緒に展示していただきました（写真11；松島ほか，2018）。協力のお礼として展示の図録（神奈川県立歴史博物館、2023）をいただきましたが、正直提供したものに比して過分なお礼で、かえって恐縮してし



写真9 県立歴史博物館の建物（旧横浜正金銀行本店）。こちらは馬車道玄関で、正面玄関は反対側にあります。



写真10 地震・傾斜計と波形モニタ（県立歴史博物館）



写真11 剥ぎ取り標本。特別展の入り口に入って最初の展示物でした。（県立歴史博物館）

まいりました。

地震計は展示としてはちょっと地味かなと思っていたのですが、実際に展示されてみるとなかなかの迫力で、やはり見せ方が重要だと改めて認識しました（写真にするとその迫力がうまく伝わらないのが残念です）。また、来館者が多いことから、歩いているときの振動を検知して波形を表示させようと思ったのですが、旧横浜正金銀行本店本館の建物である建物の床は強固すぎて人が歩いたくらいではほとんど揺れが検知

されませんでした。

## おわりに

当所でも速度型地震計の展示はありますが、ここで紹介したような波形を表示させるというようなことはしていませんでした。今回、関東地震100周年記念の展示に協力するにあたって、実際に地面が揺れている様子を目で見たい、という要望があり、立山カルデラ博物館の展示を参考に波形モニターを構築しました。リアルタイムで何かを見ること

ができるというのは、見学者の興味を引きうえで効果的であると実感しました。また、展示の仕方ただ物を置くだけでなく、光の当て方や見学者の動線も考慮して展示するのが大事だということを知ることができました。

今後、当所での展示も生かしていければと思います。

## 謝辞

展示物を提供するにあたり、小田原市郷土文化館、南足柄市立図書館、立山カルデラ砂防博物館、県立歴史博物館の展示担当の方からは、さまざまなご意見や事前調整をいただきました。また、それぞれの機関で収集した記録や写真は、関東地震を勉強するうえで大変役に立ちました。また、講演にも利用させていただきました。記して、感謝いたします。

## 参考文献

神奈川県立歴史博物館（2023）、関東大震災—原点は100年前—、160p.

加藤由加里・八巻恵美子・砂崎友梨（2024）関東大震災あれから100年、温泉地学研究所観測だより、74号、37-46.

田中里奈（2024）小田原市郷土文化館企画展「100年の記憶と記録—小田原の関東大震災—」開催記、温泉地学研究所観測だより、74号、27-36.

松島義章・萬年一剛・千葉崇・野村律夫・田中源吾・宮田眞・滝澤晶子・山口麻衣・鈴木茂・遠藤邦彦（2018）神奈川県鎌倉市で発見された江戸期の特異な堆積物～津波が関与した可能性の検討～、歴史地震、33、167-186.